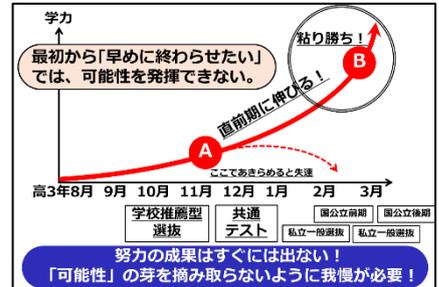


自分を信じて！信じられない時は先輩の軌跡を信じて。

進路説明会では、学力が入試本番の頃にぐんと伸びることを話してきました。桔梗祭が終わった今、懇談期間を経て夏休みへ。3年生はこの夏に受験モードへのギアをもう一段階あげます。

本校は昨年より文化祭を夏休み前実施にしましたが、これにより、**夏休み以降の成績の伸びが著しく見られました**。実際、昨年の青ネクタイ先輩たちの模試結果をそれより前3年間の赤・緑・青の成績と比較すると、夏休み前には最下位スタートだった23年度青ネクタイが夏休み以降は首位をキープしたのです。



個人の成績の伸びを丁寧に見直しても、5月最初の中統共通テスト模試で3～4割しか得点できていなかった先輩でも、最終的な共通テストの結果を見ると、**何百点も得点を伸ばし、国公立大学をはじめとする難関大突破を果たしていました**。反対に、11月以降のこれから伸びるという時期に受験を終えていた人の結果をみると、5月の模試結果から数十点しか変わっていない人もおり、自分の「伸びしろ」を実感して卒業していく人とそうではない人がいることを改めて感じました。

～夏のワンポイントアドバイス～

- 【3年生】◆あれこれ考え過ぎる時は、「合格」ではなく、その大学に歩いて辿り着くイメージを持ちましょう。足を一步前に出さないといつまでも到着しません。歩幅ではなく継続を信じてください。
- ◆入試方法や出願書類など不安なことはどんなことでも相談しましょう。
- 【1, 2年生】◆学割を申請し、旅行がてら大学見学に行きましょう。憧れは勉強の原動力になります☆
- ◆部活動は思いっきりやりましょう。体力があることは受験期に大きなプラスになります。高め合い、信頼し合えるチームは受験期も強いことを先輩たちが証明しています。(文責：桑原)



♪3年の窓♪

役に立つ・立たない、用・不用とは何か

受験が近づくと、「〇〇いらん(からやらない)」という人が出てくる。人生、無駄に見えることの方が魅力的だということに。生きるためには最低限の衣食住は必要だ。どんな調理法にしても栄養だけが必要なら、全部かき混ぜればそれですむ、器も盛り付けも関係ない。しかし、盛り付けがどうの、味がどうの、色が嫌だの、あー、注文の多いこと！生きるためのみに必要で

あるなら、そんなことどうでもいいはずなのに。2年生の総合国語や文学国語で読む夏目漱石の『こころ』。その「中」で東大生の「私」に兄が言う、「哲学なんか何の役にもたたん、実学を学べ」。でも、人が生きるためには哲学も必要だ。

受験科目ではないにせよ、今までの知識で対応できてそこで学ぶことになんの面白さも感じないとしたら、それはさみしいことだ。自分という人間の幅や生き様も狭める。たかが、17、8年しか生きていないのに、「漢文必要ない」ってなぜそんなことが言えるのか。何かの加減で漢文どっぶりの生活をするかもしれないのに。その後読んだ漢文に生き方を考えさせられるかもしれないのに。

人も同じこと、あの子嫌いって、あの子の一部しか見えていないのに。話したら、とつてもすてきな子なのかもしれない。小さな一人に何ができるか分からない。私がいなくても世の中は変わらない。あなたがいなくても世の中は変わらない。でも、あなたも私もかけがえのない一人。私はちっぽけな人間だけど、この時この人と出会えてよかった、この人のためにここにいられてよかった、と思うことがある、いつもではないけれど。あなたたちに出会えてよかった、ありがとう。そして、ここにいたのが私でよかったと思ってもらえるよう、私は私のやれることをやろうと思う。たとえ、つたなくても。あなたも好奇心を持って、今の出会いを楽しんでくださいな。

(文責：谷口)

♪2年の窓♪

「人生は選択の連続である」という格言があります。その通りです。僕たちは常に2つ以上の選択肢を目の前にぶら下げられた状態でいます。選んだ末の結果が良ければ、「ああこうしてよかった」と幸せを感じるし、悪ければ、「こっちにしておけばな」と憂鬱な気持ちで過ごすこととなりますよね。とりわけみなさんが高校生活でよく経験するのは、どの教科を勉強するか、勉強するかそれとも遊ぶか、誰と一緒に過ごすかのような、時間をどう使うかに関する選択です。「時間を無駄にしないように」「優先順位をつけて行動するように」という言葉を投げられたことがある人も少なくないのではないでしょうか。誰だって最適な道を選ぶ方がいいに決まっている。大切なことを捨てる、それよりも大切さが少ないことは捨てる。効率的で大人な考え方です。

ですが、あえて言わせてください。何かを捨てて何かを手に入れるなんて考え方は君たちにはまだ必要ありません。君たちの周りは本当は、君たちがそう望んで行動すれば、手が届くことでいっぱいなのです。やりたいこと、やらなくちゃいけないこと、人生にはどちらも存在していますが両方ともやりきればいいのです。もちろん時間は有限なので、持っている力を出しきらなければ全てを達成することはできないことも覚えておかななくてははいけません。

もうすぐに夏休みが始まります。どんな計画を立てていますか？自分がやりたいこともやらなくちゃいけないこともしっかりと見えていますか？遊ぶだけ遊んで勉強ができなかった、なんてことはもちろんないように、逆に全ての遊びの時間を削って勉強したというのも先生は好ましくありません。「学びも100%、遊びも100%」で、みなさんの夏休みが充実することを心から願っています。

(文責：楨田)

♪1年の窓♪

「馬を水辺に連れて行けても水を飲ますことはできない」

昨年私は“さか草”で、「東大生は東大に行きたいと思った人だけだ」という文を書きました。これは東大に限らず、事を成し遂げた人はそれを希望し望んだ人だけである。だから夢(目標)が大切であるということです。もちろん一人の力でそれを成し遂げる人はほとんどいません。そこで今回は教師の間でよく出ることわざを紹介いたします。

「馬を水辺に連れて行けても水を飲ますことはできない」という言葉です。英国でうまれたことわざで

“You can take a horse to the water, but you can't make him drink.”という英語表記になります。

馬に水を飲ませてあげようと思って水辺まで連れて行くことはできる。しかし、水を飲むか飲まないかは馬自身が決めることであり、無理矢理人が飲ませることができないということです。つまり、周りの人がいろんな機会を与えて支援することはできるが、最終的にそれを実行するかどうかは本人のやる気次第であるという意味です。

教師は生徒に夢、希望(目標)を持たせ、それが達成できるよう手段など考え授業を組み立てます。また、それに合わせ宿題を出したり、教材を取りそろえます。しかし、授業中に「しっかりと勉強しよう」「もっとできるようになりたい」「宿題でできるようにになりたい」という前向きな気持ちがないと、目の前に準備された水を飲まないのと同じで、先生から教えられたことが身につきません。それどころか、授業中にやる気がなければ、無理やり水を飲まされるのと同じで、わからない所がどんどん増えて勉強がいやになってきます。ぜひ、一つでも高い大学に行きたいなど夢を持ち、その夢にぬかって目標を立て、その目標に向けて周囲の力である教師を信じて授業・宿題などに意欲を持って取り組むことで、出来る喜び(達成感)や知る楽しさを感じて、様々な目標についての試練を乗り越える力を養い夢を達成して欲しいと思います。

(文責：川嶋)